

甘しよを加害する線虫と甘しよつる割病菌との混合被害について

家入 章  
(熊本県農業試験場)

A. EIRI  
Studies on the Damage of Sweet Potato  
Double-infected With Nematodes and Stem Rot Fungi

熊本県荒尾市、長洲町一帯の甘藷圃場で昭和34年頃から被害が甚だしいので被害要因を究明した結果、被害地土壌に生息する線虫類と甘しよつる割病菌との混合感染が被害を増大する事を認め<sup>(1)</sup>、昭和38~40にわたり被害現地の荒尾市で防除法の検討を行なつたので概況を報告する。

試験方法

薬剤防除試験(昭38)：供試品種沖繩100号，植付期

7月1日，収穫期11月4日，耐虫性検定試験(昭39)：植付期7月1日。対照区(EDB油剤施用)と発病区を設置し次式から指数を算出した。

$$\text{減収率} = \frac{\text{対照区いも重} - \text{発病区いも重}}{\text{対照区いも重}} \times 100$$

被害回避試験(昭40)：収穫期11月2日。

試験結果・考察

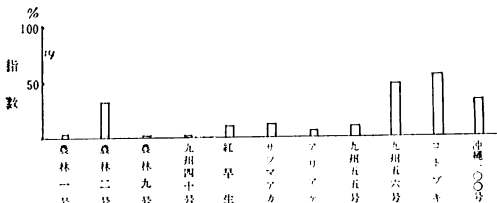
薬剤防除法として植付前にD-D油剤を10a当たり

第1表 薬剤処理による防除効果(a当たり)3区平均

処理別	項目	線虫寄生程度	茎割病被害程度	蔓重	上いも重	同左指数
		%	%	kg	kg	%
D-D	油剤 21ℓ	21.2	47.5	48.0	105.0	94.5
D-D	油剤 32ℓ	16.2	33.3	67.5	141.0	127.3
EDB	油剤 21ℓ	12.5	39.5	33.0	100.5	90.5
DBC P	乳剤 3ℓ	20.0	46.7	57.0	132.0	105.4
クロー	ルピクリン 21ℓ	27.5	29.2	78.0	222.0	200.0
無	処理区	32.3	49.0	30.0	101.0	100.0

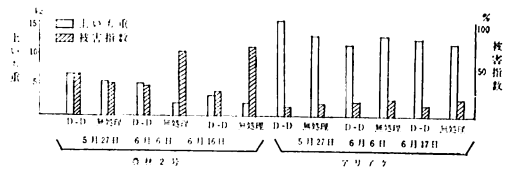
注：薬剤施用量は10a当りの施用量

第1図 減収率(3区平均)



32ℓ，または被害甚激圃場ではクロールピクリン剤を10a当たり21ℓ施用で有効である。栽培品種はアリアケが農林1号より耐虫性が強く多収性である。九州55号，農林1号は耐虫性中位であるが土壌消毒後に植付ける。挿苗期は，一般慣行が6月上~中旬であるが，

第2図 挿苗期早晚による収穫物調査(3区平均)



やや早目の5月下旬に，土壌消毒後植付けるとよいようである。

引用方 献

- 1) 家入章・古山覚：九州病害虫研究会報10 (1964) 39~41, 11 (1965) 110~112